

アルバムでみたパパ
やさ
優しそうだった





「会いたい?」って聞かれて
「会いたくない」ってこたえた

だってママが悲しむと鬼^{おに}ったから



「ありがとう」を伝える絵本

新川てるえ

「父親なんか血のつながりしかないし、関係ない!」

母子家庭で育った長女が15歳のときに口にしたひと言でした。生後3か月で母子家庭になった彼女には、父親の記憶はまったくありませんでした。「確かにママとパパは離婚しているけど、それは大人の都合であって、パパはいまでもあなたのことを想っていると思うよ」とフォローしたつもりの私に、詰め寄るように「じゃ、証拠は!?」というひと言が返ってきました。ショックでした。

離婚当時、調停で決められた養育費がちゃんと支払われたのは1年くらいだったでしょうか。支払いが滞りようになり、裁判所からの履行命令も効果がなく、自分で交渉しようと勇気を出して電話をしてみました。電話口に出た夫の再婚相手から「うちだって子どもが生まれて苦しいのに、養育費なんて払えません。裁判にでも訴えてください」と感情的に言われたときに、これ以上いやな思いをしたくないとあきらめてしまいました。

でも、「証拠は!?」と娘に問い詰められたとき、養育費をあきらめたことを後悔しました。「離れて暮らしていても愛されているんだ」という証(養育費)があれば、娘がこんなに悲しいことを考えずに育ってこれたのに、と思いました。「離れて暮らしていても愛されている」という証が、養育費と面接交流であり、子どもの権利だと思います。

アメリカ映画などに出てくる、親の離婚によって離れて暮らしている親子は、あたりまえのよ

うに週末に会っていますし、経済的な援助も親の義務として果たされています。しかし、日本では絵本の主人公のように、両親の離婚によって離れて暮らす親との関係が終わってしまい、会えないまま育つ子どもがほとんどです。

子どもの本当の気持ちや、大人の都合で無視されているのではないのでしょうか?

NPO法人Winkでは、養育費と面接交流を子どもの権利として守る活動を、10年計画で続けています。

◎2003年～2004年……ファーストステージ/支援者の啓発。支援者が子どもの権利である養育費と面接交流を守るためにできることを考えて、積極的にサポートしてほしい!

◎2005年～2006年……セカンドステージ/当事者の啓発。嫌いで別れた相手からお金なんかもらいたくない、もうかかわりたくない、と思っている養育親もたくさんいます。大人の都合で親子関係を断ち切ってしまう、本当にいいのでしょうか?

◎2007年～2010年……サードステージ/世の中の啓発。養育費や面接交流は子どもの権利であると、すべての大人が考えていける世の中になろう!

◎2011年～2013年……ラストステージ/払わない親の啓発。離れていてもわが子のためにできることを考えて! 養育費と面接交流を積極的にしましょう!

この絵本はサードステージの目的にあわせてつくられています。離婚家庭の問題としてではなく、すべての大人が子育てにおける親の責任ときちんと向きあえるように、と考えています。

Winkの活動をとおして、私は自分自身の問題としてわが子の親子交流の修復に向きあい、努力してきました。

「父親なんて関係ない」と言っていた長女ですが、彼女が15歳のときに養育費の調停をやり直し、支払いが再開した1年後、自分から父親に会ってみると言いだして再会しました。生後すぐに離婚しているので父親の記憶はなかったはずですが、会ってみて自分の父親だと実感したそうです。彼が子どものころの彼女の写真を大切にもっていてくれて「いままで何もし

うに週末に会っていますし、経済的な援助も親の義務として果たされています。しかし、日本では絵本の主人公のように、両親の離婚によって離れて暮らす親との関係が終わってしまい、会えないまま育つ子どもがほとんどです。

子どもの本当の気持ち、大人の都合で無視されているのではないのでしょうか？

NPO法人Winkでは、養育費と面接交流を子どもの権利として守る活動を、10年計画で続けています。

◎ 2003年～2004年……ファーストステージ/支援者の啓発。支援者が子どもの権利である養育費と面接交流を守るためにできることを考えて、積極的にサポートしてほしい！

◎ 2005年～2006年……セカンドステージ/当事者の啓発。嫌いで別れた相手からお金なんかもらいたくない、もうかかわりたくない、と思っている養育親もたくさんいます。大人の都合で親子関係を断ち切ってしまう、本当にいいのでしょうか？

◎ 2007年～2010年……サードステージ/世の中の啓発。養育費や面接交流は子どもの権利であると、すべての大人が考えていける世の中になろう！

◎ 2011年～2013年……ラストステージ/払わない親の啓発。離れていてもわが子のためにできることを考えて！ 養育費と面接交流を積極的にしましょう！

この絵本はサードステージの目的にあわせてつくられています。離婚家庭の問題としてではなく、すべての大人が子育てにおける親の責任ときちんと向きあえるように、と考えています。

Winkの活動をとおして、私は自分自身の問題としてわが子の親子交流の修復に向きあい、努力してきました。

「父親なんて関係ない」と言っていた長女ですが、彼女が15歳のときに養育費の調停をやり直し、支払いが再開した1年後、自分から父親に会ってみると言いだして再会しました。生後すぐに離婚しているので父親の記憶はなかったはずですが、会ってみて自分の父親だと実感したそうです。彼が子どものころの彼女の写真を大切にもっていてくれて「いままで何もし

会えないパパに聞きたいこと

2009年4月10日初版印刷

2009年4月19日初版発行

文	新川てるえ
絵	山本久美子
装丁・デザイン	鈴木未奈
編集	大塚玲子
発行所	株式会社太郎次郎社エディタス 東京都文京区本郷4-3-4-3F 〒113-0033 TEL 03-3815-0605 FAX 03-3815-0698 http://www.tarojiro.co.jp/ 電子メール tarojiro@tarojiro.co.jp
印刷	シナノ書籍印刷
製本	離波製本

定価はカバーに表示してあります。

ISBN978-4-8118-0729-4

© Terue Shinkawa & Kumiko Yamamoto 2009. Printed in Japan

NPO法人Wink

東京都新宿区新宿1-18-10-201

TEL 03-6685-6415 FAX 03-6685-9765

info@npo-wink.org <http://www.npo-wink.org/>

本書は、独立行政法人福祉医療機構「子育て支援助成金事業」により制作されたものを増刷しました。